

佐世保工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	日本語表現法
科目基礎情報						
科目番号	0012		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	複合工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	前期:2		
教科書/教材	大学生のための文章表現練習帳					
担当教員	田崎 弘章					
到達目標						
1. 日本語による文章表現の基礎知識（用字・語彙・文法等）を正確に身に付けている。C1 2. 他者の文章を正確に理解し、それに対する自らの考えを的確に表現することができる。C1 3. 必要な情報を収集・整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめることができる。C1 4. 目的や場に応じて、言葉遣いや文体等を工夫して文章表現することができる。C1 5. 用語の適切さや使用上の効果を吟味し、自らの表現や推敲に役立てることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語による文章表現の基礎知識（用字・語彙・文法等）を正確に身に付けている。		日本語による文章表現の基礎知識（用字・語彙・文法等）は不十分であるが、身に着けようとする意欲がある。		日本語による文章表現の基礎知識（用字・語彙・文法等）が不十分であり、身に着けようとする意欲に乏しい。	
評価項目2	他者の文章を理解し、それに対する自らの考えを的確に文章で表現することができる。		他者の文章を理解しようと努力し、それに対する自分なりの考えを文章で表現することができる。		他者の文章を理解しようとせず、それに対する自らの考えを文章で表現することもできない。	
評価項目3	必要な情報を収集・整理し、目的や場に応じて言葉遣いや文体を工夫し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめることができる。		必要な情報を収集した後、目的や場に応じて言葉遣いや文体を考え、意味の伝わる文章にまとめることができる。		必要な情報の収集・整理ができず、目的や場に応じて言葉遣いや文体の工夫をせず、文章にまとめることもできない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 C-1 JABEE d-2 JABEE f JABEE i						
教育方法等						
概要	伝えたいことを分りやすくて正確に表現するためには、日本語の語彙、文法、文体、表記法など、日本語そのものに対する理解を深める必要がある。本授業では、まず日本語について言語学的に学び、その運用（表現法）について実践を通して身に付けていくことを目的とする。					
授業の進め方・方法	座学を中心として授業を進めていく。必要に応じて適宜発問し、学生に回答を求める。授業では、学んだ内容を反映した形で、各自が文章の実作に取り組むことを求める。そして、そこで書かれた文章については、可能な限り教材として授業に還元し、授業の場において公開添削・推敲という形式で、より適切な文章表現のあり方を探ってゆく。					
注意点	成績の評価は、「定期考査」C1の成績を80%、これに授業中に作成を求める作文（「特別研究の内容紹介」等）C1の評価を20%分加味し、100点満点で評価する。合格は60点以上とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	日本語の構文・膠着語の特色		日本語で書かれる「文」の特徴を、構成要素である文節・単語から解き明かし、分かり易い表現の在り方が理解できる。	
		2週	日本語の文体・表記法・敬語表現		「文章」を構成する各々の「文」について、適切な並べ方およびその接続の仕方、段落（パラグラフ）の形成等が理解できる。	
		3週	日本語の文章の特色		「文章」を構成する各々の「文」について、適切な並べ方およびその接続の仕方、段落（パラグラフ）の形成等が理解できる。	
		4週	分りやすい文章に求められるもの		段落の構成、事実と意見の区別、引用、全体と細部の関連等、「文章」作成の基本となる考え方が理解できる。	
		5週	分りやすい文章に求められるもの		段落の構成、事実と意見の区別、引用、全体と細部の関連等、「文章」作成の基本となる考え方が理解できる。	
		6週	文章を書き始める準備		主題（テーマ）の設定および文章全体の構想（アウトライン）作成について、基本的な考え方および方法が理解できる。	
		7週	文章を書き始める準備		主題（テーマ）の設定および文章全体の構想（アウトライン）作成について、基本的な考え方および方法が理解できる。	
		8週	意見文等の実作演習		具体的なテーマについて、取材・記録・実験データ等を集め、それに基づく文章表現を試みる。その際、読者の理解に対する配慮を重視し、分かり易い文章として書くことができる。	
	2ndQ	9週	意見文等の実作演習		具体的なテーマについて、取材・記録・実験データ等を集め、それに基づく文章表現を試みる。その際、読者の理解に対する配慮を重視し、分かり易い文章として書くことができる。	
		10週	意見文等の実作演習		具体的なテーマについて、取材・記録・実験データ等を集め、それに基づく文章表現を試みる。その際、読者の理解に対する配慮を重視し、分かり易い文章として書くことができる。	

		11週	推敲と清書	前週に書き上げた文章を推敲し、完成原稿を作成する。その場合における着眼点および具体的な方法について学ぶ。感性原稿を学生間で相互に批評し合い、より良い表現・推敲のあり方が理解できる。
		12週	推敲と清書	前週に書き上げた文章を推敲し、完成原稿を作成する。その場合における着眼点および具体的な方法について学ぶ。感性原稿を学生間で相互に批評し合い、より良い表現・推敲のあり方が理解できる。
		13週	日本語における話し言葉	口頭発表等、話すことについて、基本的な考え方と方法について理解できる。
		14週	言語表現の周辺領域	ノンバーバルコミュニケーションについて理解できる。
		15週	豊かな表現を目指して	論文、報告、手紙、創作（詩歌・小説等）等、様々な文章のスタイルを学び、状況に応じた適切な表現をすることができるようになる。
		16週	前期定期試験	
評価割合				
		試験	課題作文	合計
総合評価割合		80	20	100
基礎的能力		80	20	100